資料7

山部会の 13 年のふりかえり

課題	テーマ	これまでの課題	これまでの取り組み（実績）	見えてきた課題	今後の試み
人と山村	流域圏（山村再生）担い手づくり事例集	山村の担い手の発掘と交流・発展	・（平成22～24年）勉強会や市民会議を通じて、山の課題の検討・整理、山部会の出発点を共有 ・（平成24年）山村再生に関する事例集の対象者の検討（農林業の担い手） ・（平成25年～平成27年）山村再生担い手づくり事例集Ⅰ～Ⅲの作成 ・（平成28年）山村再生担い手づくり事例集　その後いかがお過ごしですか？プロジェクト ・（平成28年）事例集交流会開催の検討・計画 ・（平成29～令和元年・令和5年）事例集交流会の開催（根羽村、西尾市佐久島、岡崎市額田、豊田市旭） ・（平成29～平成30年）「山村再生」→「流域圏」に改称し、流域圏担い手づくり事例集Ⅰ～Ⅱを作成 ・（令和２年）「矢作川流域圏懇談会10年誌」を作成 ・（令和3～４年）流域圏担い手づくり事例集Ⅲ～Ⅳを作成	流域圏担い手づくり事例集の成果の整理、流域市民への発信方法の検討	次年度の山部会、10 年誌編集委員会でのとりまとめと意見交換
	山村ミーティング	林業従事者の現状把握 林業担い手 100 人ヒヤリングで得られた結果の活用方法の検討	・（平成22～24年）勉強会や市民会議を通じて、山の課題の検討・整理、山部会の出発点を共有 ・（平成24年）若者ミーティング（Iターンなど）を矢作川流域山村ミーティングに改称 ・（平成25年）上矢作における山村ミーティングの試行（林業Iターン同士の交流） ・（平成26年）串原農林と根羽村森林組合の意見交換に関する情報共有、森林組合の若手（岡森フォレスターズ等）の交流検討、流域フェアトレードの概念の共有 ・（平成27年）北海道中川町の「きこりまつり」の紹介と矢作川流域で開催する場合の課題整理、他テーマとの連携模索 ・（平成28年～令和元年）矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの準備・実施、矢作川感謝祭への参画検討・参画（流域の4つの森林組合、農協、東幡豆漁協の参加達成） ・（令和２年）森づくりガイドラインと協働で、「研究者、市民ボランティア、山林現場技能者によるガイドラインづくり」と「森づくりの健康診断」の計画を作成 ・（令和3年）矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議（通称：矢作川流域山づくりWS）の実施 ・（令和４年）くしはら森の健康診断および報告会を実施 ・（令和４年）流域４森林組合を対象に現場森林技能者育成方法と現行施業ガイドラインについてのヒヤリングを実施 ・（令和５年）豊田森林組合にて、4森林組合（根羽・恵南・豊田・岡崎）で合同研修会を実施	森林組合の連携の維持 いかに林業の担い手を流域で育むか	森づくりガイドラインの策定のためのミーティングを、林業の担い手とともに実施（必要に応じて、山村ミーティングと森づくりガイドラインの共働）

山部会の 13 年のふりかえり

課題	テーマ	これまでの課題	これまでの取り組み	見えてきた課題	今後の試み
森林	森づくりガイドライン	国や県の施策の共有 他部会とのコミュニケーション・出発点の共有	• （平成22～24年）勉強会や市民会議を通じて、山の課題の検討・整理、山部会の出発点を共有 • （平成24～令和元年）時代に即した森づくりガイドライン作成の手法の検討 • （平成22～令和元年）流域自治体の森林施策等（岡崎市水循環プラン・岡崎市森林整備ビジョン、豊田市100年の森づくり構想、とよた森林学校、水源基金、東京都や大阪府など森林施策　など）の情報共有、流域市村の間伐面積を収集し、その推移と要因について情報共有、国の施策等（水循環基本法、森林環境譲与税の目的と使いみち、農水省の水源の森林づくりガイドブック、林野庁整備課の水源涵養機能の高度発揮に向けた水源林造成事業のあり方について）の情報共有 • （平成22～令和元年）森林整備と災害に関する情報共有（恵南豪雨、広島土砂災害、鬼怒川豪雨災害、九州北部豪雨） • （平成27年）荒山林業への視察による近自然森づくりの導入に関する検討、流域内の生態系サービスに関する基調講演と意見交換、流域内の主な森林・巨木の抽出と可視化 • （平成28年）神奈川県山北町への視察による森林環境税を活用した環境保全の実態の把握、海部会との合同部会の開催（西尾市東幡豆） • （平成30年）流域の科学的根拠に基づいて議論を行う合同部会を開催（岡崎市額田） • （令和元年）流域市村の間伐面積の推移を収集し、社会的な背景（国や県市村の林業政策）、気象などの物理的要因について総合的な検討を行った。 • （令和元年）地域持ち回りのWGにおいて、その地域に関係の深い方に、森づくりに関する進捗状況や課題について情報提供いただく • （令和２年）「矢作川流域の森づくりガイドライン」の策定を進めていくため、ガイドライン策定会議の企画案について検討を実施 • （令和３～４年）森林環境譲与税の使い道に関する取り組みを、行政や森林組合より報告いただいた • （令和３～４年）間伐面積についての流域市村の経年変化及び全国的な状況を調査し、地域ごとの状況の整理を実施 • （令和４年）50年の節目にあたる47災害について豊田市から提供された資料をもとに振り返りを実施	森林組合の連携の維持 いかに林業の担い手を流域で育むか 矢作川流域独自の森づくりガイドラインの策定	森づくりガイドラインの策定のためのミーティングを林業の担い手とともに実施（必要に応じて、山村ミーティングと森づくりガイドラインの共働）
	木づかいガイドライン	他部会とのコミュニケーション・出発点の共有 森林組合同士のつながりの創出	• （平成22～24年）勉強会や市民会議を通じて、山の課題の検討・整理、山部会の出発点を共有 • （平成24～令和元年）時代に即した木づかいガイドライン作成手法の検討、木づかい推進の実績共有（流域内外年間50～60箇所） • （平成24～25年）木づかいガイドラインの作成手法の検討（ブレーンストーミング等の実施） • （平成26年）木づかいガイドライン作成時の市民目線の重要性の認識、「さあ～しよう」という提案型のフォーマット作成、スギダラ矢作川支部設立に向けた意見交換 • （平成27年～令和元年）木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績の共有、木のある暮らしのアイテム（動く木のおもちゃ）の情報共有 • （平成28年、令和3年）木づかいガイドライン策定に向けた目標と項目の周知、全体会議における流域アイテム「流域ものさし」配布／私の流域物語の周知 • （平成29～令和元年）木づかいガイドライン策定に向けた自治体へのアンケートの実施、回収、訪問の検討、労働参加型プレイスメイキングの実績周知 • （平成30～令和元年）流域の森林組合の協働に関する意見交換と提案 • （令和元年）外国籍企業のCSR活動として、「サクラとハナモモの桃源郷プロジェクト」を企画し、ハナモモ200本の植栽と木づかい体験を実施 • （令和２年）森林整備や木を活用する体験プログラム「子どものための今すぐはじめる森と木のある暮らし事業」について、報告を行った • （令和２年～4年）小中学生を対象に、普段の生活の中で「森や木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムを計画・実施 • （令和３年～4年）早生樹であるコウヨウザンの試験植栽、情報共有を実施 • （令和３年～4年）木材利用を促進する対象として、改正公共建築物等木材利用促進法の改正を周知した。	木づかいガイドライン策定に向けた、市民や公的機関の動向の把握 流域の森林組合の協働、森林組合員の意見交換	懇談会で築いた人間関係を活用した、木づかいガイドラインの策定 イベント等を活用した森林組合同士の人間関係の構築・新たな協働の検討

（2012. 5. 19 修正版）

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

検討の進め方

山村をとりまく社会背景の変遷と望ましい将来像

STEP1

過去と現在を
知　る

理解と情報共有を促進する

右に記載した事項について、具体的に「知る」機会を設け、情報共有を図る
→ 市民企画会議
→ 勉強会で対応

実現に向けた課題と解決手法

STEP2

未来像実現に向けた課題と解決手法を
考える

情報共有を踏まえ、まず「人の問題」をテーマに解決手法を検討
→ 市民会議
→ 地域部会で対応

STEP3

できることから活動を
実践する

	人と山村	森　林
高度経済成長前から後へ	●自給的経済、自立、自治、誇りがあった。 ●百業をやっていた。	●薪炭林施業が行われていた。 ●最上流域や額田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。 ●藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。
	●若者が中下流の都市へ流出した。 ●拡大造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がいなくなった。	●もともと林業地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというもくろみと国策により、拡大造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。 ●国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなった。
現　代	●山村における若者の就業機会が乏しい。就業できても定着できない。 ●現代では、山村は過疎化、少子化、高齢化、核家族化が進行している。	●もともと林業地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。 ●管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増加している。
近未来（放っておくとどうなるか）	●限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村単独での自治や経済的な自立が困難となり、コミュニテイが崩壊する。 ●国、県、市町村ごと、部局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。	●林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再造林の放棄が起こり、森林の水土保全機能が喪失する。 ●不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。
望ましい未来像	●流域圏にとって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくても安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。 ●自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。	●流域圏にとって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらしてくれる森林。 ●木材生産を主目的として管理する森林と、水土保全機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。

実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生（担い手作り）から！

当面の課題1　誰がやるか（人と地域の問題）

課題
●現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。

解決手法（例）
●既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定を通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。
●上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興の推進（中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など）

役割分担
市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

山村再生のために
先ず"人づくり"が必要
そのうえで"森づくり"にも
取り組む必要がある。

担い手づくり事例集イメージ
- 山村再生担い手づくり事例集
  - 成功事例1
  - 成功事例2
  - 失敗事例1
  - ……

当面の課題2　何をやるか（森の問題）

課題
●流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。
●データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。

解決手法（例）
●「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」の策定
●モデル林の設定とモニタリング
→ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。

行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定

役割分担
市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。

間接的な懇談会の成果（波及効果）

矢作川流域圏懇談会の波及効果（懇談会のプラットホームとしての役割）	きっかけ
・（平成24年～令和5）山村再生担い手づくり事例集、流域圏担い手づくり事例集、事例集交流会による取材者と取材対象者（団体）、取材者同志の新たな繋がりが生じた。	⇒事例集の作成
・（平成26年～令和5年）根羽村森林組合が開催する木づかい推進（スギだらキャラバン）に『矢作川流域圏懇談会』の名称を示す。動く木のおもちゃ等の根羽スギを活用したアイテムに、矢作川流域圏懇談会の名称を印字することで、懇談会の存在をアピール。	⇒山部会WG・FW、矢作川感謝祭等
・（平成25年～令和5年）愛知・川の会、奈佐の浜プロジェクトへの参加（団体同士の参加呼びかけ）	⇒すべての部会（情報上祐
・（平成30年）天竜川とのつながり（天竜舟下り・スギダラ天竜支部）	⇒山部会WG、事例集交流会（H30）
・（平成26～令和5年）愛知県主催の三河大感謝祭に根羽村森林組合が参加	⇒山部会WG
・（平成29～令和5年）流域の森林組合（根羽村森林組合・恵南森林組合・豊田森林組合・岡崎森林組合）が協働してイベントに参加	⇒山部会WG（山村ミーティング） ⇒市民部会、海部会発公開講座
・（令和3年）矢作川流域圏懇談会10年誌の東京大学の講義で活用	⇒矢作川流域圏懇談会10年誌の発行
・（令和3年～4年）公開講座を通して、全国に矢作川流域圏懇談会の存在をPR、懇談会員以外からの問い合わせをいただく	⇒市民部会、地域部会
・（令和3年～5年）いい川づくりワークショップにおいて、懇談会員と会員以外の参加者の交流が生じる	⇒山部会WG・FW
・（令和4年～5年）根羽村・林業のミライ合宿を大学生（岐阜大学、信州大学、人間環境大学）主体の若者で実施	
・（令和5年）大学生の就職先や卒業論文のテーマの斡旋・助言（信州大学4年生）	⇒山部会WG・FW、市民部会
・（令和5年）Foods　for Children愛知との意見交換（オーガニック給食に関する）	⇒市民部会公開講座